

1 本資料について

本資料は基本設計策定における基本的な考え方を検討するための資料になります。この資料を基に基本設計(案)を作成しました。

2 保育所建設の基本コンセプトについて

本計画では次の四つをテーマにしています。この資料編では「①敷地形状と高低差を考慮した配置計画の検討」「②安全性を確保した平面計画と階層、構造の検討」についての検討内容を掲載しております。

①敷地形状と高低差を考慮した配置計画の検討

・計画敷地は住宅地に面しているため園庭利用時の周辺環境への配慮や児童の送迎時の導線を考慮した配置計画の検討を行います。敷地造成の計画にあたっては高低差の処理を検討する

②安全性を確保した平面計画と階層、構造の検討

・児童が安全に保育所ですごすことができるよう、細部まで配慮した平面計画とします
・建設コスト、ランニングコストの費用対効果の検証と自然災害を念頭に置いた平屋と2階建て、構造(鉄筋コンクリート造、鉄骨造、木造)の検討を行います。

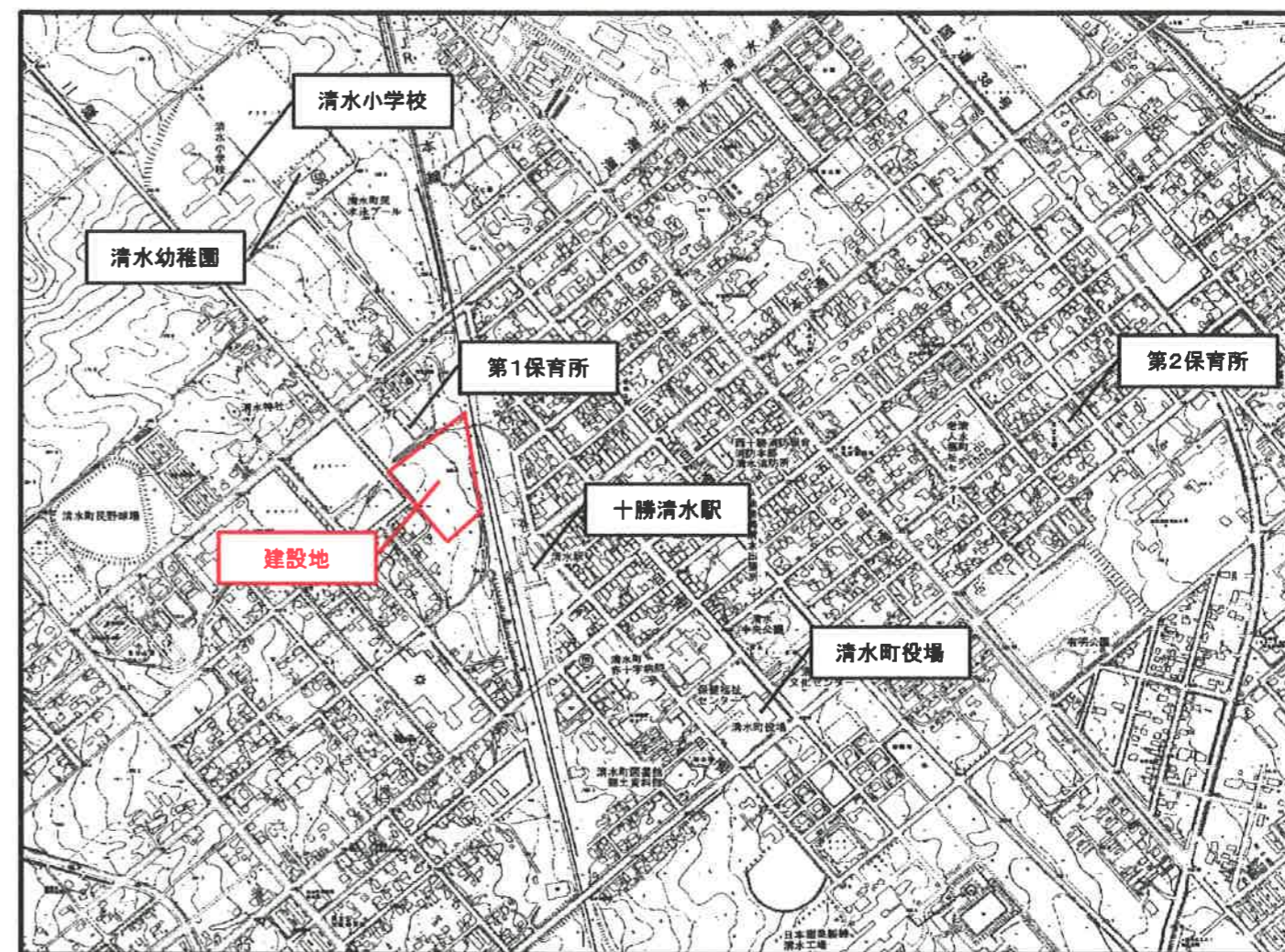
③外構(園庭)の検討

・子どもたちの体力向上や興味をかりたてる遊具や「しかけ」等による多様な保育・教育のニーズに対応できるように検討します。

④将来認定こども園への変更を考慮する

・第1保育所と第2保育所の統合の計画だけではなく、将来の幼稚園との統合も念頭に置いた幼保連携型認定こども園としても対応できるように計画をします。

3 建設場所見取り図



4 計画概要

- (1)建設場所 上川郡清水町北1条1丁目1番地外
- (2)敷地面積 12,814㎡
- (3)用途 保育所(将来認定こども園予定)
- (4)計画定員 200名(0~5歳児)
- (5)想定職員数 40名
- (6)施設概要
 - ・保育所本体 約2,200㎡程度(±10%程度)
 - ・駐車場 60台程度
 - ・関連施設 園庭(グラウンド、築山、遊具等)

5 配置計画

敷地について	当該敷地は一部斜で不整形の形状をしており、東側にJR線路、西側・東側は町道に接し、南側は空き地(町有地)に面しています。西側道路とは地盤に高低差がありJR線路側に行くほど低くなる。		
駐車場位置	駐車場は送迎時の出入りを考慮し二方向の道路に接する北側に配置します(全案共通)。また、行事の時は第一保育所側の空き地を臨時駐車場として利用します。		
検討各案	イ案 道路寄り南北長手案	ロ案 東西長手案	ハ案 JR線路寄り南北長手案
配置イメージ			
計画の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・建物を東側町道沿(住宅側)に配置。 ・園庭をJR線路側に配置。 ・住宅と園庭の間に建物が配置される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建物を東西方向に配置。 ・園庭を南側に配置。 ・園庭が住宅側に面する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建物をJR線路側に配置。 ・園庭を西側道路沿い(住宅側)に配置。 ・園庭が住宅側に面する。
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅側に建物があるので園庭利用時に周辺環境に配慮できる。 ・外構造成費が抑えられる。 ・建物がJR線路から離れた位置になる。 ・保育室から園庭に直接出入りできる。 ・上下水道の本管に近い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・南面採光となる。 ・保育室から園庭に直接出入りできる。 ・上下水道の本管に近い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建物正面が道路側から見える。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の裏面が道路側に面している。 ・園庭がJR線路側に近い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭が住宅側に面する。 ・建物の東側がJR線路に近くなる。 ・外構造成費がイ案に比べて高くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭が住宅側に面する。 ・建物がJR線路に近い。 ・外構造成費が3案の中で一番かかる。 ・上下水道の本管から遠い(費用増)。
総評	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭利用時に周辺環境に配慮でき外構造成費も抑えられる。 ・園庭がJR線路側に近いがネットフェンスを設置し安全対策は可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭が住宅側に面し周辺環境への影響が懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭が住宅側に面し周辺環境への影響が懸念される。 ・外構造成費がかかる。



総合的に判断してイ案をベースにして配置計画を進める。

6 平面計画

検討各案	A案 2階建て(3~5歳児2階案)	B案 2階建て(0~2歳児2階案)	C案 平屋建て
<p>平面イメージ</p>			
<p>計画の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・0~2歳児が1階、3~5歳児を2階に配置。 ・B案より2階面積が大きくなる。 ・建物がシンプルなI型になる。 ・屋内スロープを設置し2階への上りを容易にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・0~2歳児が2階、3~5歳児を1階に配置。 ・A案に比べて2階面積が小さくなる。 ・建物がシンプルなI型になる。 ・屋内スロープを設置し2階への上りを容易にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2~5歳児保育室がグラウンドに面する。 ・2階建てに比べてコンパクトになる。 ・導線に配慮してL型になる。 ・3歳未満児との区別を図る。
<p>床面積</p>	<p>1F 1,653.00㎡ 2F 825.00㎡ 合計 2,478.00㎡</p>	<p>1F 1,812.25㎡ 2F 588.60㎡ 合計 2,400.85㎡</p>	<p>2,039.39㎡</p>
<p>共用率</p>	<p>1F 360.00 2F 311.00 計671.00㎡(27.07%)</p>	<p>1F 428.55 2F 318.05 計746.60㎡(31.09%)</p>	<p>381.69㎡(18.71%)</p>
<p>※共用率とは ホール、エレベーター、屋内スロープ、階段の共用部分が全体床面積に占める割合です。</p>			
<p>防災面</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震 新耐震基準。 ・水害 2階へ避難。 ・火災 1階は玄関、教室から直接避難、2階は二つの階段を利用して避難。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震 新耐震基準。 ・水害 2階へ避難。 ・火災 1階は玄関、教室から直接避難、2階は二つの階段を利用して避難。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震 新耐震基準 ・水害 床高を浸水レベルより上げる。 ・火災 玄関、教室から直接避難。
<p>メリット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・B案に比べて2階面積の総面積に対する割合が大きいので㎡単価が安くなる。 ・水害時に2階へ避難できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水害時に2階へ避難できる。 ・3~5歳児は教室から園庭へ直接出入りできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面積が一番コンパクトになる。 ・2~5歳児は教室から園庭へ直接出入りできる。 ・火災時に屋外地上へ直接避難できる。 ・2階建てに比べて運営がしやすい。
<p>デメリット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共用率が高く面積が大きくなる。 ・保育室が1、2階へ分かれるため平建てに比べて運営に配慮が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共用率が高く面積が大きくなる。 ・保育室が1、2階へ分かれるため平建てに比べて運営に配慮が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水害対策として床高を浸水レベルより高くする必要がある。
<p>総評</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水害時には2階へ避難できる。 ・B案に比べて㎡単価が下がる。 ・C案に比べて床面積が大きくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水害時には2階へ避難できる。3歳児以上は園庭に直接出入りできる。 ・他の案と比べて共用部が大きくなる。 ・C案に比べて床面積が大きくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面積が一番コンパクトになり、火災時に直接屋外へ避難ができ運営もしやすい。2歳児以上は園庭に直接出入りできる。 ・水害対策で浸水レベル以上に床を上げる必要がある。



総合的に判断してC案をベースにして平面計画を進める。

7 構造検討

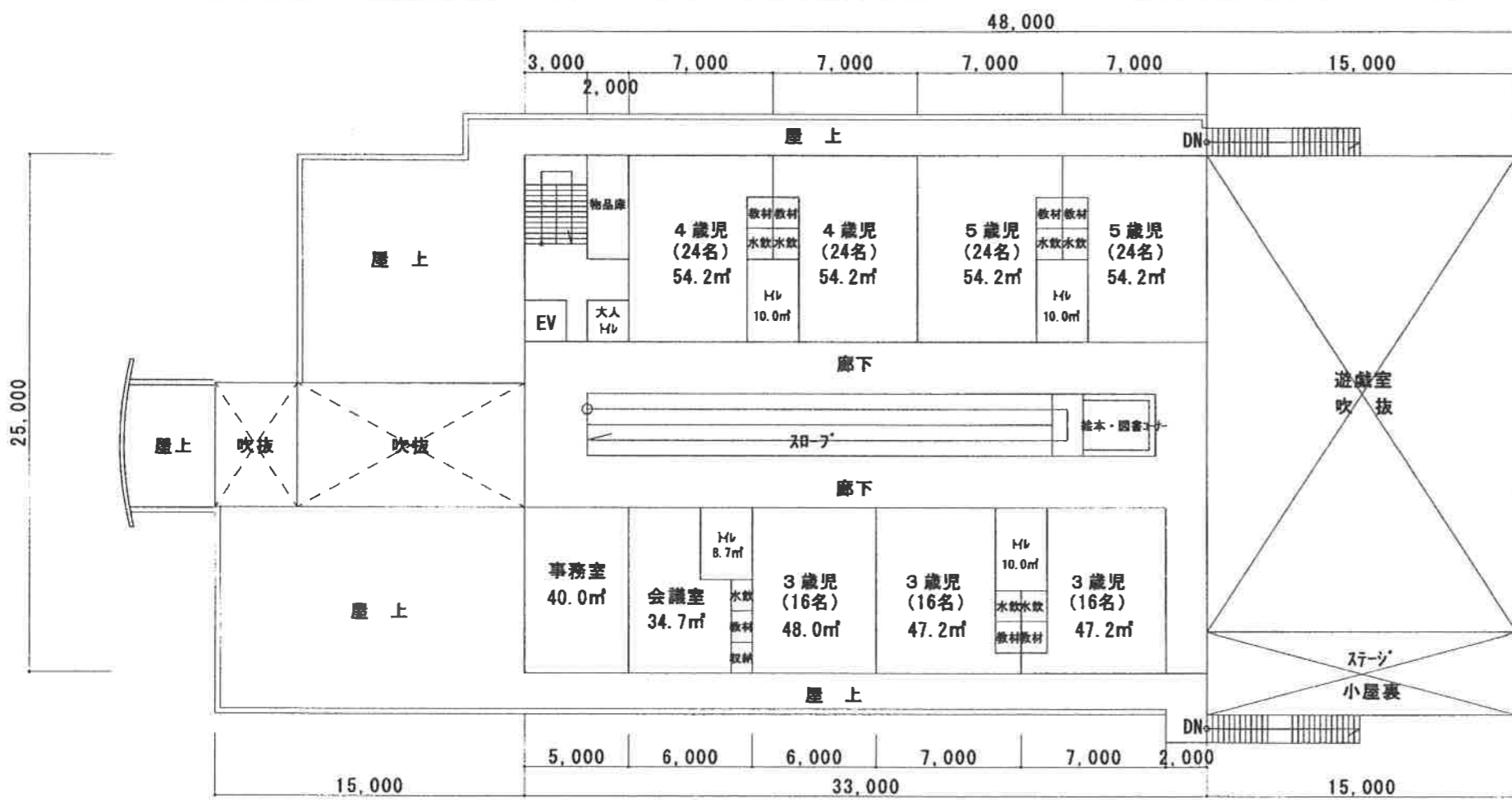
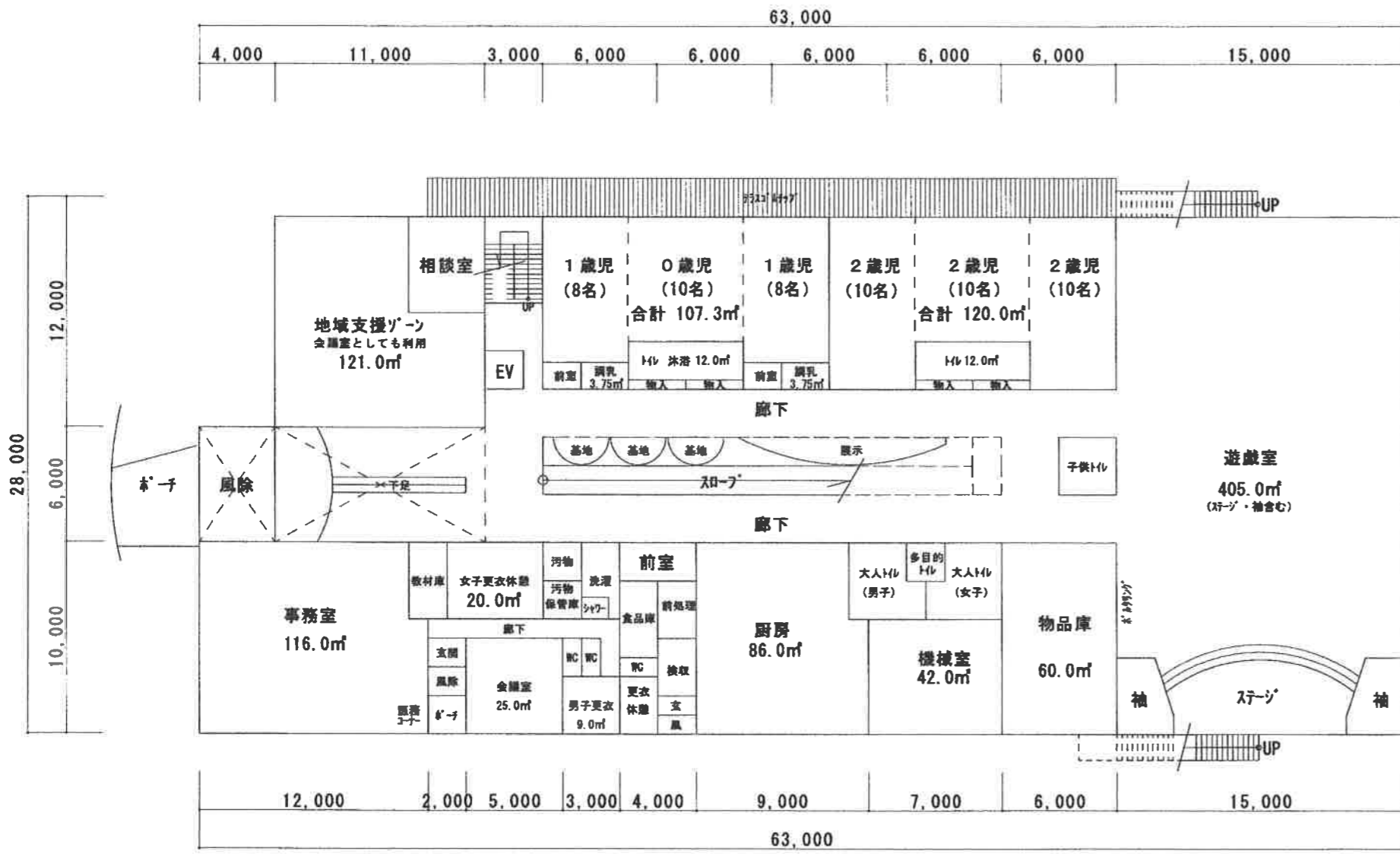
	木造(準耐火構造)	鉄骨造(準耐火構造)	鉄筋コンクリート造(耐火構造)
構造の特徴	主要な構造体が木造になります。計画している保育所は一般的な住宅と違い大スパンが必要なため大断面の集成材になる。	構造体が鉄骨になる。大きなスパンが取れる。	構造部が鉄筋コンクリートになる。耐久性が高い。
空間デザイン	柱、梁の構造材を室内面に表すことにより木造ならではの温かみと親しみやすい空間が可能になる。	木質内装により木造のような空間は可能。	木質内装により木造のような空間は可能。
工期について	特に大きな影響をあたえる要素はない。	工事が集中すると鉄骨工事に左右され可能性がある。	工事が集中すると型枠工事に左右され可能性がある。
地域性	木造工事が多く地元還元が可能。	木造に比べ木造工事は少ないが木質内装にすることにより地元還元は可能。	木造に比べ木造工事は少ないが木質内装にすることにより地元還元は可能。
耐久性	木造準耐火構造となるため鉄骨造と同等な耐久性になる。	耐久性は鉄筋コンクリート造より劣る。	他の2構造に比べて耐久性は高い。
建設コスト	構造部が大断面集製材となり割高になる傾向がある(近年は下落傾向)。鉄筋コンクリート造と同等程度。	3構造で一番安価になる。	鉄骨造より高くなる。
メリット	木造ならではの木の温もり、暖かさなど親しみやすい空間ができる。木工事が多く地元還元ができる。	工事費が一番安価。木質内装により木造のような空間は可能。	耐久性が一番優れている。
デメリット	耐久性は鉄筋コンクリート造より劣る。近年コストが下落傾向になるが鉄骨に比べて高くなる。	耐久性は鉄筋コンクリート造より劣る。内装木質化のコストが若干増。鉄骨工事により工期が左右される可能性がある。	内装木質化のコストが若干増。型枠工事により工期が左右される可能性があります。鉄骨造に比べて高くなる。
総 評	木造ならではの木の温もり、暖かさなど親しみやすい空間ができる。耐久性は鉄筋コンクリート造より劣るが供用に大きな問題はない。工期に影響はない。鉄骨造より建設コストは高い(最近下落傾向にある)。	建設コストが一番安価になる。耐久性は鉄筋コンクリート造より劣るが供用に大きな問題はない。工期が鉄骨工事に左右される可能性がある。木質内装は若干コスト高になる。	耐久性が一番優れている。鉄骨造よりは建設コスト高になります。木質内装は若干コスト高になる。



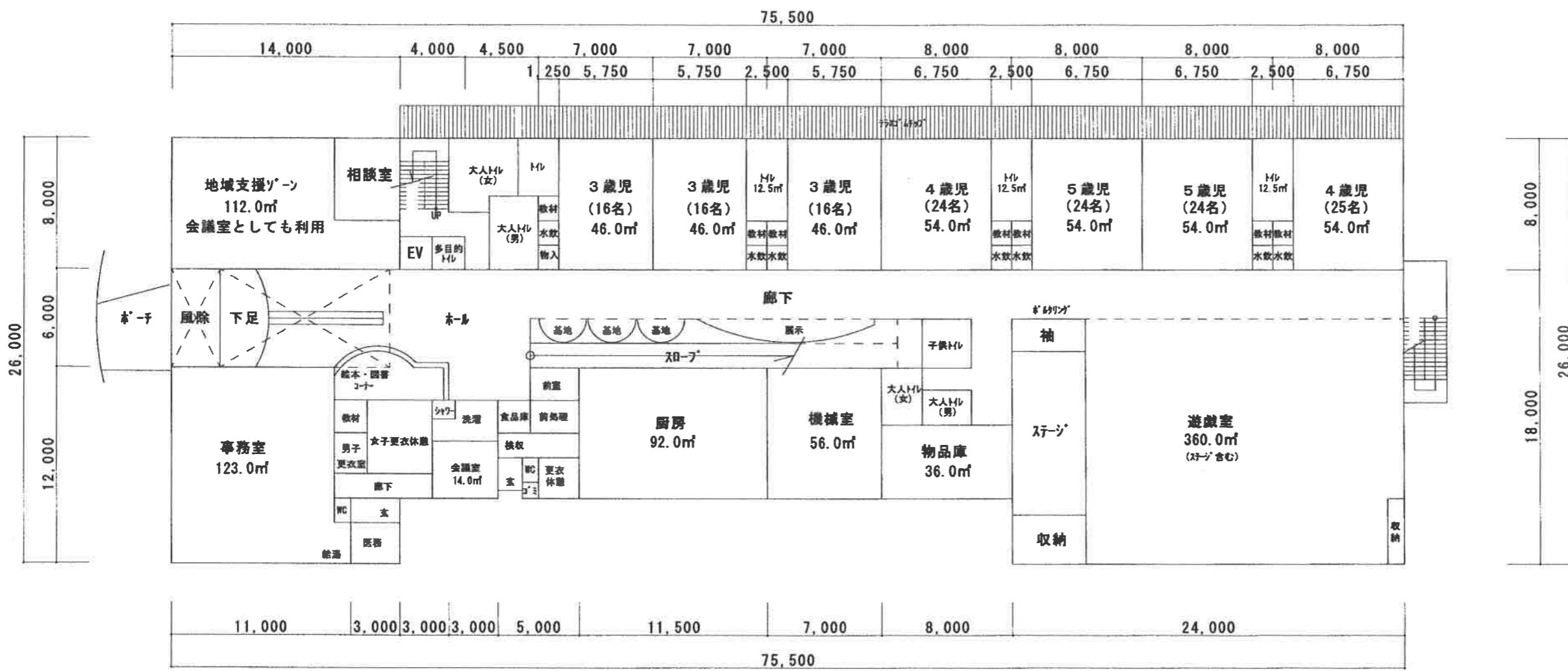
総合的に判断して木造と鉄骨造を中心に進める。木造においては建設コスト減を検討する。

平面計画図 A・B・C案

※この図面は建物のボリューム、平面計画等を検討するための参考図面になります。

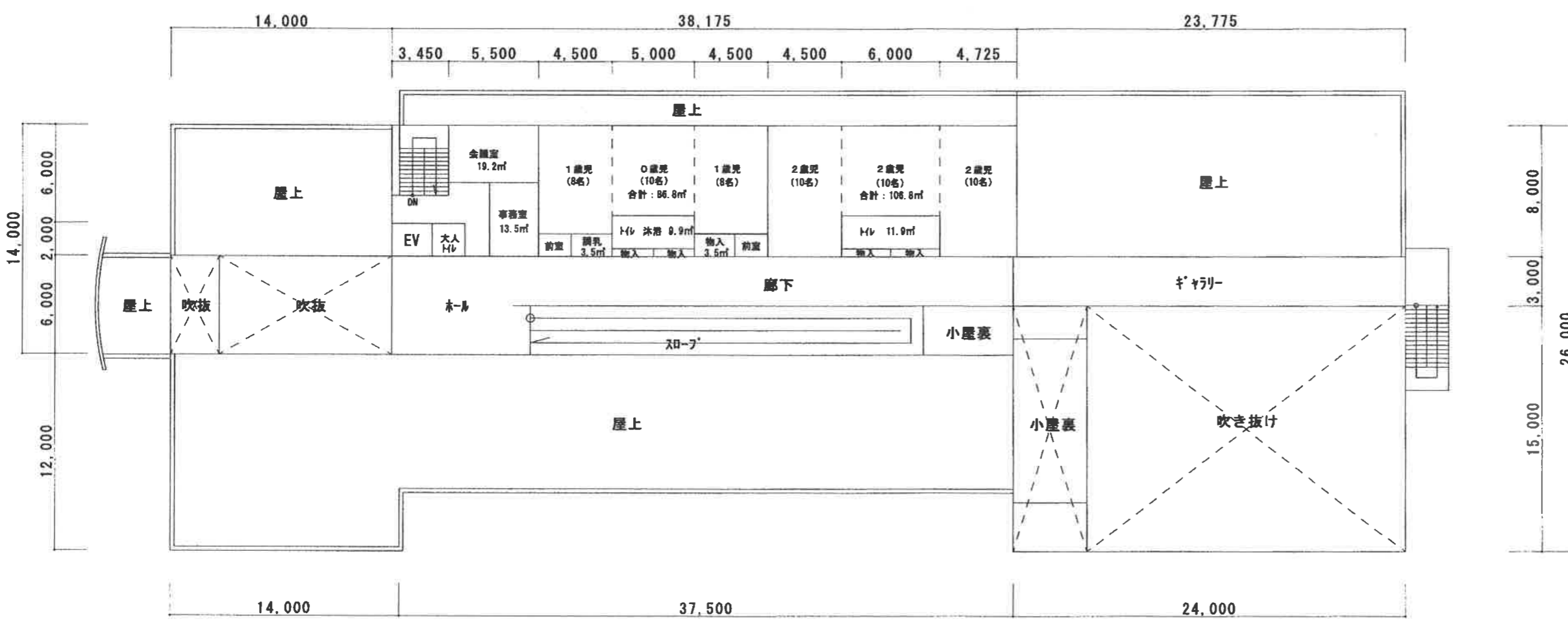


延床面積 : 2,478.00m²
平面計画 A案



1 F 平面計画図 1:300

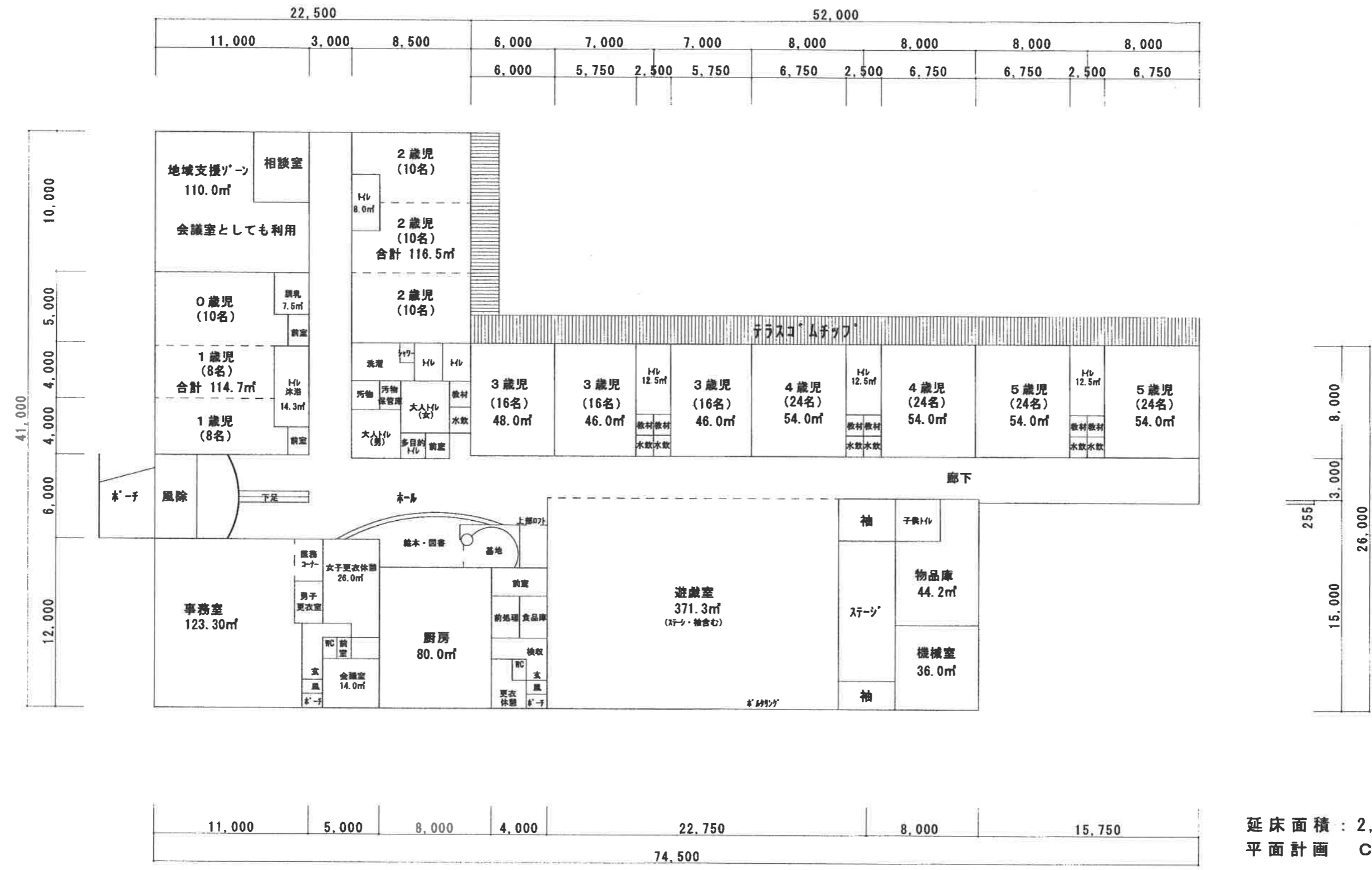
1,812.25㎡



2 F 平面計画図 1:300

588.60㎡

延床面積：2,400.85㎡
2階建平面計画 B案



延床面積 : 2,039.39㎡
 平面計画 C案